

日语教学法的 理论与实践

日语教育基础
理论与实践系列丛书

策划

北京日本文化中心

(日本国际交流基金会)

高等教育出版社

总主编

曹大峰 林洪

主编

林洪

著者

日本国际交流基金会

林洪

译者

(按姓氏笔画)

陈俊森

赵刚

侯仁锋

教授法
きょうじゅほう

高等教育出版社

日语教学法的

理论与实践

日语教育基础

理论与实践系列丛书

策划

北京日本文化中心

(日本国际交流基金会)

高等教育出版社

总主编

曹大峰 林洪

主编

林洪

著者

日本国际交流基金会

林洪

译者

(按姓氏笔画顺序)

陈俊森

赵刚

侯仁锋

高等教育出版社·北京

图书在版编目(CIP)数据

日语教学法的理论与实践 / 林洪主编. -- 北京 : 高等教育出版社, 2015.8

(日语教育基础理论与实践系列丛书 / 曹大峰, 林洪主编)

ISBN 978-7-04-042368-6

I. ①日… II. ①林… III. ①日语—教学研究 IV. ①H369

中国版本图书馆CIP数据核字(2015)第062850号

策划编辑	张博学	责任编辑	张博学	封面设计	张志奇	版式设计	张志奇
责任校对	张博学	责任印制	张泽业				

出版发行	高等教育出版社	咨询电话	400-810-0598
社 址	北京市西城区德外大街4号	网 址	http://www.hep.edu.cn
邮政编码	100120		http://www.hep.com.cn
印 刷	北京天时彩色印刷有限公司	网上订购	http://www.landdraco.com
开 本	787mm×1092mm 1/16		http://www.landdraco.com.cn
印 张	35.75	版 次	2015 年 8 月第1版
字 数	673 千字	印 次	2015 年 8 月第1次印刷
购书热线	010-58581118	定 价	65.00 元

本书如有缺页、倒页、脱页等质量问题, 请到所购图书销售部门联系调换
版权所有 侵权必究
物 料 号 42368-00

日语在中国已经成为学习人数仅次于英语的外语语种。据日本国际交流基金会的调查和中国高等教育学生信息网显示,中国日语学习人数 2012 年突破了 100 万,跃居世界第一。其中,高等院校的日语学习者 67.9 万人,日语教师 11271 人;开设日语专业的高校 506 所,具有日语硕士学位授予权的高校 83 所,可招收日语语言文学博士研究生的高校近 20 所。

随着教育规模的快速增长和社会需求的不断变化,中国日语教师专业化发展的的问题也日益凸显。主要问题有二:一是高校日语学习者的多样化和复合型国际化人才的培养目标对教师提出了新的要求,以中青年教师为多数的日语教师队伍亟待更新教学理念,改革教学方法,提高教学能力;二是目前日语教师的学科背景多为日语语言学、文学、社会学、文化等,而教育学、心理学专业背景的教师人数尚在少数,同时缺少比较集中的系统的有关教学、课程、教师、学习、教材等方面的专业培训。

据中国日语教学研究会和日本国际交流基金会的问卷调查,大学日语教师对教师专业化培训的需求迫切,他们希望获得国内外语言学、教学理论、研究方法等方面的学术前沿信息和教学方面的案例分析。¹许多教师认为日语教育研究较难,原因是“未受过专业教育”“不懂研究方法”“没有地方发表成果”“没有途径获取最新信息”等。²

1 引自学会与北京师范大学、北京日本学研究中心和北京日本文化中心合作实施的《大学日语教师专业发展现状与需求调查》问卷结果。

2 引自北京日本文化中心对赴日研修教师的问卷调查结果。

鉴于上述情况，高等教育出版社和日本国际交流基金会北京日本文化中心共同策划了这套《日语教育基础理论与实践系列丛书》，计划三年内出版8部与日语教育学领域相关的论著，其主题为语言理论与教学、协作学习、对比研究与教学、科研方法、教学法、第二语言习得、跨文化交际、教师与学生等，以期为相关领域的教师培训和研究生教育提供支持。

本套丛书是国内首次策划出版的一套“日语教育基础理论与实践系列丛书”，其特点为邀请中日两国专家合作编写，反映中、日两国在同领域的学术前沿信息和最新研究成果；用日汉双语撰写以充分表述观点，立足中国本土，放眼全球；丛书各册均从日语教育的角度来讨论相关话题，与以往的纯学术性的研究专著不同，更加注重基础理论与教学实践及科研能力的结合；提供一定数量的课例及教案分析，以帮助读者通过实例理解体会新的教育观和语言观，结合自己的教学实践加以对比和反思，从而更好地组织教学、展开研究。

我们希望通过这套丛书，为读者建立一个全景式地了解日语教育学相关理论与实践成果并由此向教师专业化发展迈进的基础平台，以帮助日语教师在教学和科研方面成为良好的思考者、实践者和成功者。

曹大峰 林洪

2015年春

国内日语教学界多年没有比较集中地讲述教学法的书籍问世了。利用本丛书编辑出版之机，并从日本国际交流基金会业已出版的14本『日本語教授法シリーズ』中聚焦于课程设计、听、说、读、写、评价、教法的改善等与语言技能关系更为密切的7本，并在此基础上通过一课的教案设计，综合分析了在课堂教学中如何运用教法。

本书的特点在于，通过有层次的思考题，带领读者回顾课堂、观察生活，把外语学习与实际语言交际活动结合起来，辅之以诸如课程论、外语教学理论、第二语言习得理论等，深入分析听、说、读、写过程中需要什么样的能力来支撑，以及如何培养这样的能力。通过一定的实例或课例，带领读者分析在教学过程会出现什么问题，为什么会出现这些问题，如何解决这些问题。在这个意义上，本书的学习过程，就是一个反思的过程，探究的过程，合作思考与实施的过程。而这种过程与学生的学习过程是十分接近的。只有教师自身熟悉并掌握了这种学习方式，才能在课堂上更好地引导和帮助学生去围绕能力的发展去学习日语，而不仅仅是关注掌握了多少个词汇、学会了多少个句型。诚然，词汇、句型等语言材料是多多益善的。但从国民教育的意义来看，学习外语的目的绝对不仅仅是把外语当作工具来对待，更为有意义的是外语的人文性，即培养国民的国际视野与多元文化理解与沟通能力。因此，外语的教学方法，侧重点就更应该放在能力的培养、策略的意识与运用。

面对“教学法”，不同的老师会有不同的态度和感受。一些老师会认为自己没有学过与教学相关的教育学、心理学甚至系统的日语语言的专门课程，面对教学法的书籍，会不会读不下去；一些老

师会认为说一千道一万，外语学习就是背单词、记语法，根本用不着讲究那么多的方法；还有一些老师会认为，不是说“教无定法”吗？我学了这些教学法，会不会限制了我的思路和方法呢？

应该说，上面的这些想法不无道理，但都有偏颇之处。首先，“教无定法”这句话不是孤立存在的，前后还有话，比较完整的表述是“教学有法，教无定法，贵在得法，教为不教”。担心读不下去的老师，尽管放心，因为本书不是单纯地讲述理论，适当地引用一些理论，是为了说明问题、帮助读者拓宽视野和思路。外语学习确实离不开背单词、记语法，但老师如何更有效地呈现这些知识，学生如何才能更好地理解、运用这些知识，是有多种思路和方法的。我们没有理由拒绝了解和尝试使用更为有效的方法吧。就像过去我们是用马车来作为主要交通工具的，现在有了高铁。如果我们为了要尽快到达目的地，恐怕没有人会拒绝使用高铁。马车是否就从此销声匿迹吗？也不会，我们可以看到国内国外都还有使用马车的地方，比如旅游景点、崎岖山路等。方法是为目的服务的，就像知识的摄取是为能力形成服务一样。

愿我们这本书，能为大家更为轻松、自如、自主、有效地开展日语课堂教学提供值得参考的一些思路与方法。

北京师范大学 林洪

2015 年春

第一章 日本語教師の役割 / コースデザイン 1

1. 日本語教師の役割 2
2. コースデザイン 7

第二章 聞くことを教える 61

1. 何为“听”？ 62
2. 听的过程 69
3. 听的策略 78
4. 听力活动的实际设计 99
5. 听力课程的设计 126

第三章 話すことを教える 173

1. 什么是口语 174
2. 口语能力的培养 188

第四章 読むことを教える 257

1. 什么是“读”？ 258
2. 培养阅读方法的“读”的活动 265
3. 阅读课的教学计划① 276
4. 阅读课的教学计划② 281
5. 与其他技能相配合的“读” 289

第五章 学習を評価する 315

1. 「学習を評価する」とは 317
2. テストによる評価 331
3. テストによらない評価 419

第六章 教え方を改善する 447

1. 「教え方を改善する」とは 448
2. 教え方をふり返る 463
3. 教え方を改善するための活動 494
4. 改善を広い視野でとらえる 516

第七章 如何上好一节课——以《新编日语》第二册第四课为例 537

この章は、日本語教師の役割について考え、日本語教師として理解しておかなければならないことをコースデザインという大きな枠組みの中でとらえなおすことをめざしています。

本章の学習目標は以下の3点です。

<目標>

1. 日本語教師として今の自分の仕事をふり返り、より広い視野をもって考え直すこと。
2. 常に学び続けることの重要性を認識すること。
3. コースデザインという大きな枠組の中で教師として理解しておかなければならないことを認識すること。

本章旨在思考日语教师的作用，拟在课程设计的大框架内，重新思考日语教师所应理解的事项。具体目标有如下3点：

1. 回首作为日语教师的自己现在所从事的工作，从一个更加宽广的视野来重新思考这项工作。
2. 认识保持不断学习常态的重要性。
3. 认识在课程设计的大框架内日语教师所应理解的事项。

1 日本語教師の役割

この節では日本語教師の役割、つまり日本語教師に求められることについて考えます。まず教師の仕事について考えてみましょう。

1.1 日本語教師の仕事



ふり返りましょう

【質問1】

日本語教師として、あなたはどのようなことをしていますか。教師経験の浅い人はどのような仕事があると考えますか。できるだけ具体的に、できるだけたくさん書き出してください。

日本語教師として、していること

例) 授業の学習目標を設定する。授業で教える内容を決める。……



整理しましょう

【質問2】【質問3】では【質問1】で答えた内容を異なった角度から整理します。自分が今までしてきたこと、あるいは考えていたこと、そしてこれからさらにすべきことが見えてくるはずです。

(1) 学ぶこと・教えること

【質問2】

まず、【質問1】で答えた内容を教師自身が「学ぶこと」に関係すること、学習者に「教えること」に関係すること「どちらでもない」ことに分けてみましょう。

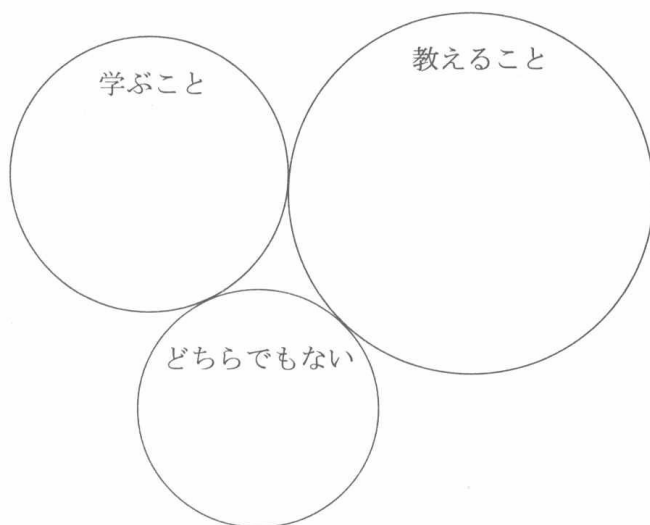


図1-1

日本語教師として、していることに「学ぶこと」がどのくらい含まれていましたか。授業のために文法項目をもう一度復習したり、本を読んで現代の日本語について考えたりしている人もいるかもしれません。また勉強会や教師会で発表したり、ほかの教師の発表を聞いたりするのも「学ぶこと」に含まれるでしょう。そしてそれだけではなく、日々のさまざまな教授活動も、「教える」と同時に学習者から「学ぶ」ことも多いと自覚し、「学ぶこと」と「教える」ことの両方にさまざまな教授活動を入れた人もいたと思います。どれも教師としてすばらしい姿勢であり、考え方だと思います。重要なことは、教師として常に学び続ける姿勢を持つことです。「日本語」も「日本語の教え方」も時代とともに常に変化してきています。そして何よりも自分自身が常に柔軟に新しい情報や考え方を取り入れ、学習者からも学ぼうとする姿勢は、教師としての人間性に影響し、重要な要素となっていくことでしょう。

少なくともこの本を手にとってもう一度教師として学びなおそうと考えている人は、十分「学ぶこと」の重要性を理解していると言えます。

教師の仕事は「教えること」だけではありません。「学ぶこと」「常に学び続けようとすること」も教師の重要な仕事です。

(2) 学校の中・学校の外

【質問3】

【質問1】で答えた内容は次のどの部分に入りますか。図1-2の中に書き入れてみてください。

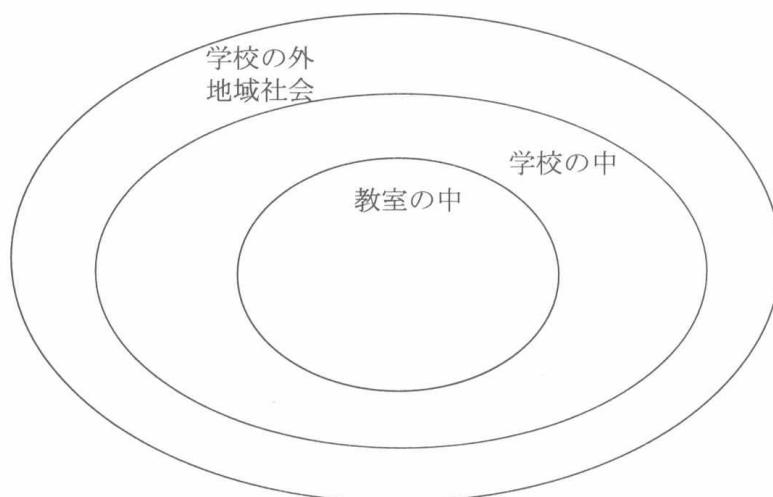


図1-2

日本語教師としてすることの大半が「学校の中」に含まれていた人はいませんか。教師として「学校の外」ですることたくさんあるはずです。たとえば、次のような活動をどう考えますか。

- 同じ地域の学校の教師（同僚）と日本語や日本語の授業の方法について相談したり話しあったりする。
- 日本語教師同士の勉強会やワークショップに出席する。
- 地域の日本人コミュニティの活動に協力し、学生と日本人との交流をはかる。

教師の世界は「学校の中」だけに限りません。「学校の外」にも自分が関わる世界があることを認識しましょう。

今までみてきたように、教師の仕事、教師の役割にはさまざまな側面があることがわかりました。ただ日本語の知識を学校の中で教えるだけの存在ではないことがわかってきたと思います。

しかし、実際には「教える内容」があり、「日本語の授業」をすることは、とても重要な仕事です。次に、そうした「日本語の授業」をするうえで、具体的に教師が理解しておかなければならないこと、考える必要があることを整理してみましょう。

1.2 教師が理解しておくこと



考えましょう

【質問4】

たとえば、授業をするために、まず「1回の授業の計画を立てる」という仕事を考えてみましょう。この仕事をするために、教師が理解したり考えたりしておかなければならないことにはどのようなことがありますか。具体的に書き出してみてください。

「1回の授業の計画を立てる」ために教師が理解したり考えたりしておかなければならないこと

例) 文法項目の知識 (何を教えるか・どこが難しいか)

会話練習をするか

さまざまな内容があったと思います。自分の文法知識に関するもの、教授法に関するもの、あるいは、学校の方針に関するものなど、いろいろな分野のものがあったはずです。次にそれらの内容を整理して考えてみましょう。



整理しましょう

【質問5】

図1-3は、ある教師が【質問4】の答えとして書き出したものを8つの項目に分けて整理したものです。あなたが考えつかなかったものはありますか。また逆に、もしあなたが考えたことで図1-3にないものがあったら、書き加えてみましょう。

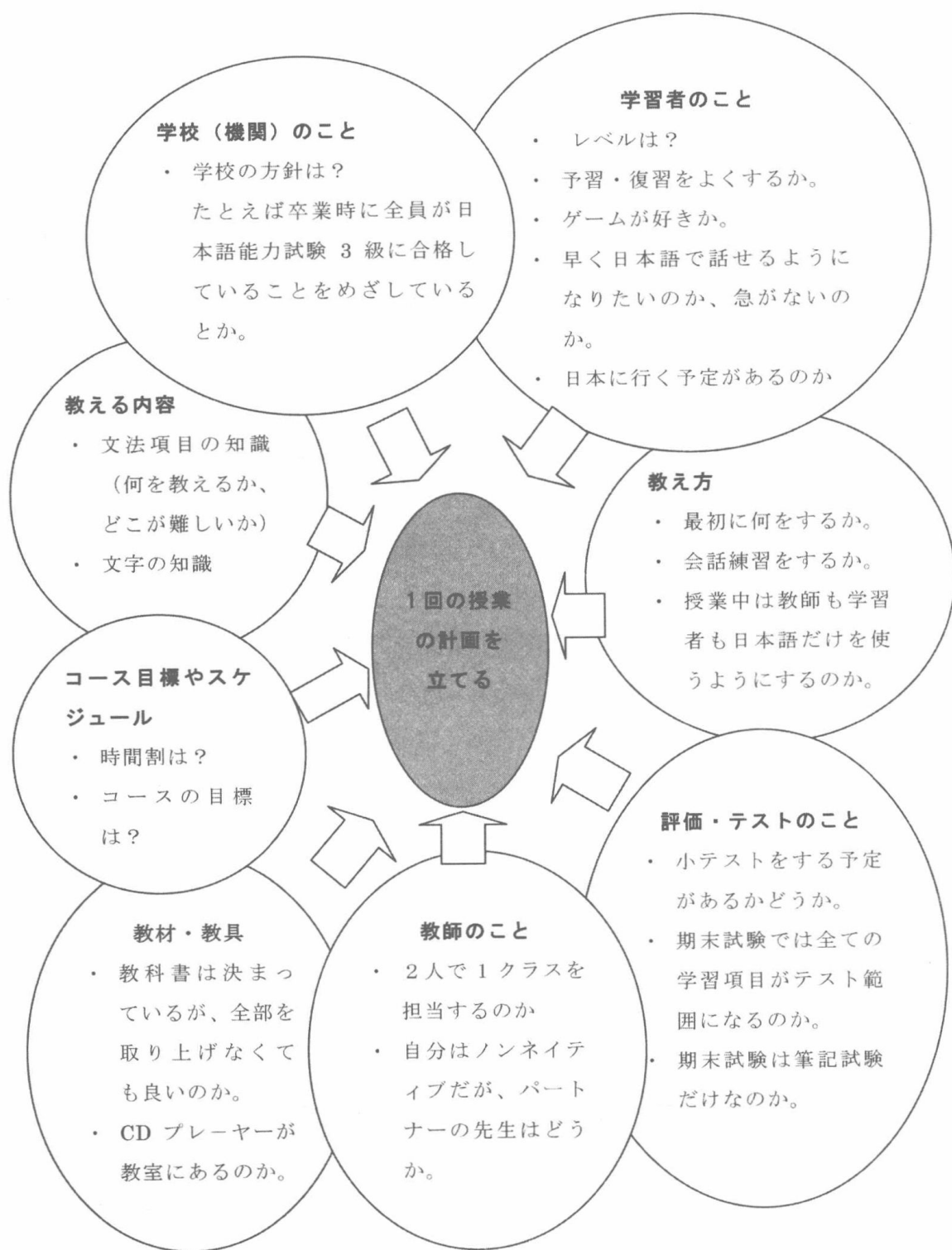


図1-3 「1回の授業の計画を立てる」ために教師が理解したり
考えたりしておかなければならないこと

「1回の授業の計画を立てる」ことを例にとって、どのようなことを教師として理解しておく必要があるのか8つの項目に分類して整理してみました。実はこの8つの項目

は、1つ1つの教師の仕事のレベルからコース全体の設計（コースデザイン）のレベルまで、さまざまなレベルで考えることが必要な項目なのです。また、日本語教師はどのような立場で教えていても、コース全体のことを理解し、知っておく必要があります。そこで次の節では、この8つの項目について、コースデザインという少し大きな視野のもとで考えてみることにします。

2. コースデザイン

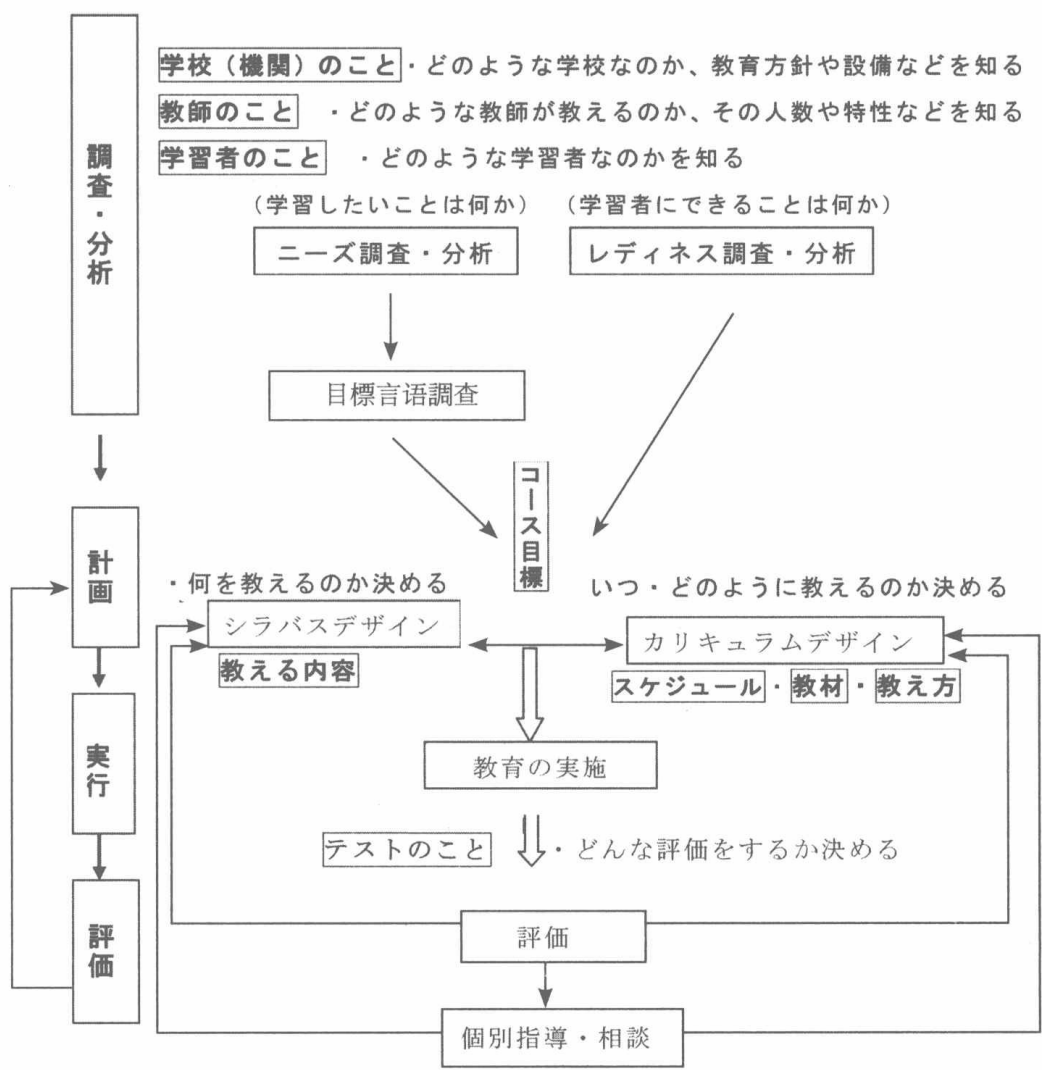


図1-4 コースデザインの流れ

コースデザインとは、前述の通り、コース全体の設計のことを言います。前ページの図1-4は、コースデザインの流れを示した図です。この図の中に、前節の【質問5】で考えた8つの項目（学校（機関）のこと、教師のこと、学習者のこと、教える内容、コース目標やスケジュール、教材・教具、教え方、評価・テストのこと）がどのように位置づけられているか確認してください。

2.1 学習者のことを知る

8つの項目のうち、まず「学習者のこと」について考えてみましょう。明日の授業について考えるときも、コース全体の設計をするときも、必ず学習者について考え、理解しておく必要があります。

では、学習者について理解するというのはどういうことなのでしょう。図1-3の「学習者のこと」には、次のようなことが書かれていました。あなたが図1-3に書き加えたことももう一度書いてください。

- ・ レベルは？
 - ・ 予習・復習をよくするか
 - ・ ゲームが好きか
 - ・ 早く日本語で話せるようになりたいのか、急がないのか
 - ・ 日本に行く予定があるのか
 - ・

この内容をよく見てみると、学習者自身の状況を表すもの（Readyness, 「レディネス」）と、学習者が望んでいることや必要だと感じていることを表すもの（Needs, 「ニーズ」）の2つの面があることに気がつきます。この2つの面についてそれぞれ考えてみましょう。

(1) 学習者のレディネス

学習者の「レディネス」とは、前述の通り、学習者がどのような状況にあるかということを示します。



考えましょう

【質問6】

上の□の内容「学習者のこと」の中で学習者の状況を表す「レディネス」